

説教題：「**レプトン銅貨2枚の祈り**」

聖書箇所：ルカによる福音書20章45 - 21章4節（150頁）

説教者：秀島牧師 招詞：讚美歌93 - 1 - 31 交読詩編：詩編106編1 - 5節（117頁）

讚美歌：83/95（聖なる霊よ）/120（主はわがかいむし）/475（あめなるよろこび）/27

「今週の聖句」〔そして、ある貧しいやもめがレプトン銅貨二枚を入れるのを見て、言われた。

「確かに言っておくが、この貧しいやもめは、だれよりもたくさん入れた。」（ルカ伝21：2-3）

「牧師室の窓」 「この時期は仰げば尊し口に出(い)づよく噛み食べよと恩師の口癖」

「ミツマタの黄色き花は集まりて半球をなすチームの精華(せいか)」

(1)皆様おはようございます。先週の木曜日、3月20日に春分の日を迎えました。暑さ寒さも彼岸までと言われますが、先週は春分の日の前日には東京都心に雪が降り寒さに凍える状態でありました。その後は一転して気温が上がり、東京では桜（ソメイヨシノ）の開花が予想されています。春分の日と言いますのは、「国民の祝日に関する法律」によりますと「自然をたたえ、生物をいつくしむ」日であるとされています。身近なことで言いますと、この教会から小竹向原駅までの道筋のレンガ舗道の脇に、大きなマンションが幾つか建てられました。その道路沿いの敷地に植物が植えられて、だいぶ馴染んできました。今後の成長が楽しみです。人間も成長する存在です。人間は生まれて成長し、子供が成長し、大人も成長するのです。神の国へ行くその時に至るまで、神と共に、神によって育まれて行く存在であります。教会の礼拝で讚美歌を歌い、御言葉に触れ、自分を見直し、主なる神への祈りによって養われ、神の国に行く準備を積み重ねて行きます。この人の世に生きつつ、神の国を実感することができる喜びが与えられるのであります。

(2)きょうの聖書箇所は、ルカによる福音書の20章の終わりから21章の始めまでを読んで参ります。対象としている箇所は、章を跨いでいますが、同様な記事が書かれているマルコによる福音書では第12章の中に書かれています。マルコ伝でもルカ伝でも、いずれも、僅か7節の短い記述の箇所ですが、私たちの「信仰生活に係る重要な御言葉」が書かれている箇所です。それのみならず、「社会生活に係る重要な御言葉」が今日の聖書箇所の重要な主題・テーマであります。

それは何かと言いますと、「自分と他者との比較、自分と神との関係」です。自分が他の人との中でどの様な位置にいるのかを、人間はいつも気にする動物であり、気になって仕方がない存在なのです。見方を変えれば、他人が自分をどの様に見ているのか、他人の目を意識しているのです。併(しか)し、それは、自己を向上させるエネルギーにもなりますので、「自分と他者との比較」が全て良くないということではありません。人間の社会は、多くの動物の集団と同様に、競争の社会でもあります。併(しか)し乍(なが)ら、人間は長い歴史の中で、弱者を救済する考えを持ち、互いに助け合い支え合うことを学んできました。

(3)きょうの聖書は45節から始まります。イエス様はエルサレム神殿の境内で今日も人々に語り掛けておられました。46節に書かれている「律法学者」とは何かと言いますと、先週と同様にお手元の聖書の後ろに書かれている「用語解説」で「律法学者」見てみますと、そこには次の様に書かれています。「律法を専門的に研究し、解釈して民衆に教える教師。…社会的に尊敬される地位にあった。学者の多くはファリサイ派に属していたと思われる。…イエスの時代には、文字どおりの律法順守に拘泥するあまり、他の人に厳しい順守を要求したので(律法主義)、愛の実践を優位におくイエスと真っ向から対立した。」このように書かれています。本来は人々を導く役割を担っている律法学者が自己の保身を優先していたのです。人間には、食べ物・着る物・住む所、つまり「衣食住」が必要ですが、必要以上の独占欲や、他の人間に対する支配欲が起きてきます。先週の主日礼拝では、私たちはルカ伝20章27節以下で、「復活の時」について、〔(ルカ20:38)すべて

の人は、神によって生きている)ことを学びました。神によって生きるとは、人間を差別しない事でもあります。社会の人々の役に立とうとする人間でありたいと生きることでもあります。

47節に「(20:47) そして、やもめの家を食べ物にし、見せかけの長い祈りをする。このような者たちは、人一倍厳しい裁きを受けることになる。」と書かれています。弱い立場にある「やもめ(寡婦)」からの相談に対し、多額な相談料や相続財産の横領があったものと推測されます。弱い立場の人々が辛く悲しい状況に置かれていたことにイエス様はそうであってはならないと教えておられます。

(4)21章の1節～3節を見てみましょう。賽銭箱のことが書かれています。イエス様の時代のエルサレム神殿は区分された領域を經由して、一番奥まった聖所・至聖所に至ります。その途上に「婦人の庭(女性が入ることができる場所)」があり、そこに幾つかの「賽銭箱」が置かれていました。並行記事のマルコ伝福音書を見ると「大勢の金持ちがたくさん入れていた」と書かれています。別の賽銭箱では「貧しいやもめがレプトン銅貨二枚を入れ」ていたのです。「レプトン銅貨」とは聖書の後ろにある「度量衡・通貨」一覧表を見ると、「最小の銅貨で1デナリオンの1/128」と書いてあります。128は2を7回掛け算した(2の7乗)数字であり、1/128とは、1を半分にして、更に半分にし、7回半分にした数字です。ローマ時代の優れた土木・建築時術を支えた計算の考え方と考えられます。小さな数値・小さな単位を大切にしていたのでしょう。扱(さ)て、基準となる1デナリオンは1日働いた労働賃金に相当します。1時間の労賃を仮に1,500円として1日8時間働けば、12,000円になります。その1/128は約94円です。仮に1レプトンを100円と計算すれば、「レプトン銅貨二枚」は200円になります。

3節4節を見てみましょう。〔(21:3) …「確かに言うておくが、この貧しいやもめは、だれよりもたくさん入れた。(21:4) あの金持ちたちは皆、有り余る中から献金したが、この人は、乏しい中から持っている生活費を全部入れたからである。」〕お金の価値はその人の収入力(つまり、稼ぎ高)や生活状況によって異なります。また、食料品の流通状態によっても異なります。日本で働く人の殆んどが月払いの月給を受け取っていますが、インフレーションが異常に加速すると、2週間毎の賃金を受け取るようにしないと必要な食料品が買えなくなってしまいます。日本の食料品の供給率はカロリーベースで4割弱と低水準です。アメリカの新政権による貿易関税率引き上げが日本のこの弱点に影響を与えかねません。工業製品の輸出が減少すると、食料品が輸入できないのです。現在、今国会では来年度の国家予算審議が放置に近い状態となっています。今後の不確定要因を考えると、懸命に議論すべきは、国民の食糧供給であり、物価や国民生活の安定であり、数十年後の年金支給の安定化です。国会議員の方々には国家予算・国家財政になお一層に目を注いでいただきたいです。

(5)話を元に戻しまして、3節4節をもう一度見てみましょう。〔(21:3) …この貧しいやもめは、だれよりもたくさん入れた。(21:4) …この人は、乏しい中から持っている生活費を全部入れたからである〕と書かれています。3節では、誰よりも少ない金額が「だれよりもたくさん入れた」とイエス様は理解されたのです。4節ではその理由として「乏しい中から持っている生活費を全部入れたから」と判断されています。「生活費」とは何でありましょうか。私の幼い頃は貧困が身近にありました。貧富の差は明瞭に存在していました。貧しさから抜け出すためには、学業を身に付け、技術を習得することです。英語を学び、数学を身に付けて、学校を早く卒業し就職することでした。

現代の日本の社会では貧困が隠れて存在しています。社会の见えない所で貧困が大きくなっています。十数年前に私は神学校での極く短期の留学でフィリピンの南部、ネグロス島にあるシリマン大学の大学院神学校に行ってきました。近隣の農村や漁村にも宿泊してきました。シリマン大学

はプロテスタント・キリスト教の学校ですが、フィリピンはカトリック・キリスト教が人々に浸透しています。貧富の差が大きく、農村や漁村では貧困が同居しています。

併(しか)し、そのような状態であっても、家の中の祭壇には花を飾って礼拝の場を作っています。また、近隣の教会で、献金をしているのです。その様にして支え合って、信仰を共にしているのです。その何年か後に、息子が勤務している会社からフィリピンに派遣されましたので、私たち夫婦でマニラに行きました。孫が通っている小学校に行きました。キリシタン大名であった高山右近、終焉の地にも行き、マニラ郊外のカトリック教会のミサにも出席しました。大勢の貧しい人たちが礼拝に参加し、献金をしていました。その少し前に、私は厚生労働省の職員と共に赤道を越えてソロモン諸島国(ガダルカナル島ほかの島々や海洋)での戦没者慰霊に行きました。同地ではキリスト教の教会が沢山あり、多くの人が礼拝に参加し、献金を献げていました。

(6) 献金とはなにか。様々な考え方がある中で、この地上での人生の中で、神と共にある、神と共に人生を生きる証であると言うことができるでしょう。私は学生時代に法律と経済を学び、特にお金についての金融や財政について学びました。就職してからは、「お金を生かす」・「お金を死なせることはさせない」仕事で人生を過ごし、教会生活を続けて、所属教会と母教会とに献金をしてきました。皆様も今までの教会生活、或(ある)いは、これからの教会生活に係わる「祈りの教会生活」を、きょうの聖書箇所「レプトン銅貨二つ」を味わって、より豊かな信仰生活を歩むことができることでしょう。

来週の主日礼拝では、年間4回ある、月間5回目の日曜日、当教会では「読書と祈りの礼拝」です。日本キリスト教団出版局発行の「信仰生活ガイド／教会をつくる」の第12章「献金」を学びます。ページ数が他の章と較べて少なく、読み易くなっています。事前にお読みくださいます様に。今日の聖書箇所と合わせて、御言葉の学びを深める良い機会であると思います。

・・・お祈りします。

イエス・キリストの主なる神様。私たちは、受難節・レントの期間を過ごしています。キリストが歩まれた道に思いを馳せて、神の恵みに感謝して日々を過ごしたいと願っています。辛い時に勇気をお与え下さいます様に、私たちの信仰を導いて下さいますようお願いいたします。災害を被った各地に住む人々に、平安をお与え下さい。戦争の只中にある人々に平和が実現しますように。私たちに知恵と勇気をお与え下さい。

教会に連なる一人ひとりに、地域で生活している、働いている一人ひとりに、主なる神の御恵みと平安がありますように。

イエス・キリストの御名によって祈ります。 **アーメン**